「平和と人権」市民ネットワーク情報　N021-9

事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　　2021.9/10

総選挙に向け 宣伝活動を広げよう

◆衆議院議員の任期は 10 月 21 日までですので、総選挙がこの秋に行われることは間違いありません。当初、菅首相の続投を前提に 10 月 5 日公示、17 日投票の任期満了選挙が有力視されていましたが、菅首相が政権を投げ出したことによって、選挙日程は **11 月にずれ込む**可能性が高くなりました。総選挙の最大の争点は自公政権に対して、国民がどんな審判を下すかです。安倍から菅にいたる 8 年間の自公政権はどんな特徴があるでしょうか。第一は歴史修正主義史観に立って戦後民主主義の基本的な価値を否認し、憲法改正を企てたこと。第二は、新自由主義経済政策により経済格差を拡大し、社会の分断を進めたこと。第三に、集団的自衛権を合法化し、日米軍事同盟という名の対米従属に邁進したこと。加えて、モリカケ・サクラ疑惑に学術会議の会員任命拒否など、権力の私物化、国民への説明責任の放棄を上げることが出来ます。

他方、コロナ禍の中で東京五輪・パラリンピックを強行し、感染の爆発的拡大をもたらしました。危機的な状況に際して、安倍・菅と二代にわたって政権を投げ出した無責任さを私たちは声を大にして糾弾します。総裁選に名乗り挙げている岸田氏や河野氏もまた、安倍・菅政権のもとで要職を歴任し、失政の責任をまぬかれません。自民党の新総裁に誰がなるにしても、総選挙で問われるべきは国民一人一人の命と生活を顧みず、国のメンツや大企業の利益・利権を最優先する自公政権の構造そのものです。

〈宣伝パンフの表紙〉(重岡秀子さんデザイン)

◆来たる総選挙において、私たちの一票によってこのような政府に「NO！」のレッドカードを突き付けましょう。一人でも多くの人に私たちの考えを伝え、「政治を変えよう、政府を変えよう」という声を広めて行きましょう。そのための宣伝パンフを作りました。A5 サイズ(この用紙の半分の大きさです)8 頁の小冊子です。このパンフを活用して、ご近所で、お住まいの地域で宣伝活動に取り組みましょう。

地域で　配布しましょう

ご近所で

2,500 枚のパンフを用意しました。総選挙の公示前に、1 枚残らず配布しましょう。総選挙の日程が流動的ですので、早めに、できれば 9 月中に撒いてしまいたいですね。

＜1＞ パンフのご入用の方

ご近所の方に配るため、あるいは知人に紹介するため、個人的にパンフがご入用な方は三好まで連絡を。お名前・住所と必要部数を、電話(45-1182)かメールでお知らせください。無料でお送りします。

＜2＞ 地域の配布計画

コミセン単位で、チームを組んでポスティング活動に取り組みます。
ポスティングに参加してくださる方は、地域の責任者に日時・集合場所などをあらかじめ確認しておいてください。無理せず、やれる範囲で。

地域	責任者	地域	責任者
宇佐美	持田千早(☎080-3617-7916)	荻・十足	松本元延(☎080-5294-1566)
川奈	三好康昭(☎ 45-1182)	伊豆高原・城ケ崎	伊藤廣光(☎080-3314-7047)
伊東旧市街	斉藤昭夫(☎090-1478-8101)‥9 月 16 日(木)10:00 マンダリン駐車場集合		

★資金カンパのお願い

2, 500 部のパンフの印刷・製本代金として 31, 123 円かかりました。市民アクション会計より支出しますが、皆様から少しでもカンパを賜れば財政的に助かります。口座を作っていませんので、アクション or ネットワークの事務局員にお申し出ください。

「変貌する自衛隊」学習会を終えて

(1) 実施状況

コロナ下で、人が集まって学習会を開くのは難しいです。50 名を越える講演会は無理だし、オンラインで会議を開くノウハウもありません。かといって何もしなければ、活動の意欲が下がるばかりです。「やれる範囲でやろう」と決めました。こうして、4 月 22 日から 7 月 22 日まで、五回の学習会を持ちました。テーマは「変貌する自衛隊」。実施状況は以下の通りです。

月　日	テキスト	実施内容	参加者
4/22	ビデオ「離島防衛のリアル」を視聴。	ビデオを見ての感想・意見交換。	6 人
5/20	「世界」20 年 10 月掲載の論文の学習。	自衛隊の現状について意見交換	6 人
6/24	半田滋「先制攻撃する自衛隊」の学習。	スライドを使って自衛隊の現状を説明。その後質疑。	6 人
7/22	ハンドブック『菅政権の成立と改憲問題の新局面』の学習。	二つの論文の内容を報告し意見交換。その後ビデオ視聴。	6 人

(2)参加者数

偶然ですが、どの回も参加者は 6 人でした。延べ人数は 24 人です。個人としては 13 人が参加しました。過去二回の学習会と較べてみましょう。

2019 年	2012 年自民党憲法改正草案の学習	4 回に延べ 32 人参加	参加した個人は 14 人
2020 年	安保・地位協定の学習	4 回に延べ 31 人参加	15 人
2021 年	変貌する自衛隊の学習	4 回に延べ 24 人参加	13 人

個人の数でも、延べ人数で見ても、今年は一番参加者が少なかったです。やはりコロナ感染の影響があったと考えられます。感染を恐れて外出を控えた人もいたでしょう。コロナとかワクチン接種などの身近な問題に関心が集中して、自衛隊や日米軍事同盟といった”大問題”に関心が及ばなかった人もいたでしょう。参加者が少なかったのはやむを得ないことだ、と受け止めています。

(3)テーマの設定と報告者

(7/22 第五回学習会)

市民アクションは「9 条改憲 NO!」を目的に活動しています。この目的に関わるような、できれば現在進行形のテーマを取り上げるようにしています。昨年の「安保・地位協定」、今年の「変貌する自衛隊」はまさにそのようなテーマでした。狭義の憲法学習に限らず、広く「戦争と平和」に関わるテーマを学習していきたいと思っています。また室内での学習だけでなく、フィールドワークというか、外の施設や資料館の見学・学習も考えていきたいです。

報告者は「身内」で賄うのが原則です。素人の集まりだから専門性には欠けますが、反面、素人の生活感覚を生かして学習するメリットもあります。第二回学習会ではこんなやり取りもありました。

C…軍拡が私たちの生活とどうつながっているかを伝えることが大事。米軍基地や自衛隊に全く関心のない人も、子どもの成育環境には関心がある。

D‥F35 ステルス戦闘機一機で、保育所が何カ所建てられるとか。

E‥軍事力に依存して安全・安心を図るという思考から、私たちの生活と暮しの豊かさを第一にして、無駄な軍事費を削っていく、ということ。

F‥身近な生活の問題を、軍事や外交や地球環境といった大きな問題につなげる思考・構想力が大事。つながりを具体的にわかりやすく説明したい。

誰もがレポーターになれて、参加者が気軽に双方向でやり取りできるような学習会をつくっていきたいです。

(4)終わりに

コロナ下の今、市民の自発的活動に人が集まりにくいし、地味な学習会となるとなおさらです。そういう時だからこそ、草の根の活動を絶やさないようにしたいです。機会を提供していくことが、つながりを絶やさない途だと思います。「継続は力」ということわざもあります。今は続けることがなにより大事。そんな思いで地道に学習会に取り組んでいきます。

(以上)

寄稿　静岡県母親大会に向けて

実行委員長　戸田弘子

２０２２年伊東市で「静岡県母親大会」が開催されます。

日本母親大会は 1955 年スイスのローザンヌで開かれた世界母親大会の精神を引き継ぎ「命を生み出す母親は、命を育て、命を守ることをのぞみます。」のスローガンのもと続けられてきました。アメリカのビキニ環礁での水爆実験に端を発して始まった「日本母親大会」は世界で唯一今日まで毎年開かれてきました。

静岡県母親大会は「ビキニ被災船第五福竜丸」の母港であり、「三度許すまじ原水爆を」の運動発祥の地として、「母と子が安心して住める世の中をつくるために」県内各地で歴史を刻んできました。「待機児童をなくして！」「少人数学級実現を！」「消費増税反対！」「一人ぼっちのお母さんをなくそう」等、くらしの問題、医療・介護、働き方、環境問題を様々な年代の方が関心を持たれていることなどをテーマにして、講演を聞いたり、語り合い続けてきました。来年は５９回目の「静岡県母親大会 in 伊東」になります。未だに世界では戦争・紛争が起こっています。私たちの前には命と暮らしを脅かす問題が次々と生じています。子供・孫の世代へはこのまま渡せないと思っています。母親大会のスローガン「命を守ること」に共感された団体や個人により、学びあい・話し合い・知恵を出し合う大会にしたいと思っています。参加を呼び掛けていく中で大勢の人たちに出会い、願いや怒りや要求を話し合うことで伊東の市民としての繋がりが広がっていくことを願っています。多くの団体・個人のご参加を呼びかけます。ご協力よろしくお願いします。

雨の中のスタンディング―8 月の「19 日行動」―

大気が不安定で、午後になると伊東の空は黒雲に覆われました。13:30 を過ぎると大粒の雨が降り始め、水しぶきを跳ねあげて車が通過します。観光会館前には 14～5 人が集まりました。「ここまで来て中止はない」と、銘々傘をさしながらドライバーに向けプラカードを掲げます。“雨の中、横断幕を広げ、一体何をしているのだろう”―信号待ちをしながら、訝し気にこちらを見る人たち‥‥。今日のスタンディングはこうして始まりました。初めにスピーチに立ったのは坂庭さんです。熱海の土石流が人災である所以を説きました。盛り土を規制する法律がなく自治体任せ。静岡は規制は緩い。届け出だけで盛り土ができ、届け出に違反しても強制力のある指導・命令ができない。その結果今回の惨事を招いた、と説得力ある話をされました。斉藤昭夫さんは核兵器禁止条約への参加を、世界の潮流と国内世論の賛成意見を数字を挙げて強く訴えました。伊藤泰子さんは、コロナの爆発的な感染に対する政治の無策・無能を批判し、政治を変えるため来たる総選挙での国民の自覚を訴えました。最後に重岡さんがマイクを握りました。重岡さんはコロナと自然災害が同根であることに注意を促します。際限のない利潤追求による森林破壊・自然破壊のしっぺ返しを受けている、資本主義が生んだ災厄である、と告発しました。重岡さんの話が終わる頃、雨も小降りになり雲の隙間から日が差し込み始めました。(M.Y)